



令和6年(2024年)3月14日 公表  
 令和5年版 山口県日本海側重要魚種の資源評価

ウルメイワシ (対馬暖流系群)

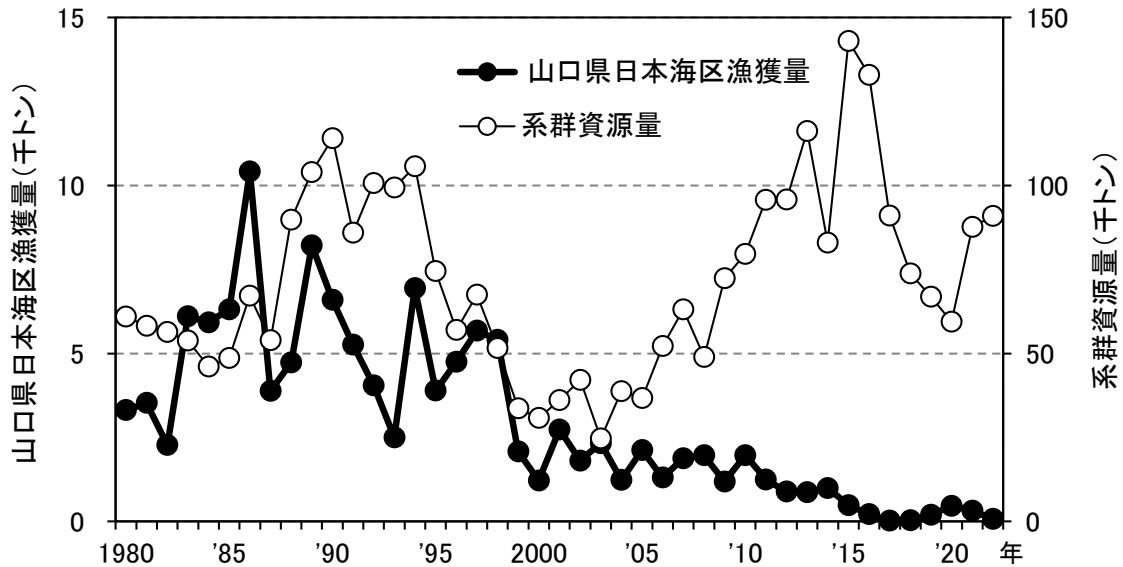


図 山口県日本海区ウルメイワシ漁獲量 (漁業・養殖業生産統計年報) 及び対馬暖流系群ウルメイワシ資源量 ((国研) 水産研究・教育機構 資源評価報告書) の推移

【漁業】ウルメイワシは主に棒受網により秋に小・中羽(当歳魚)が漁獲されるほか、初夏に旋網により大羽(1歳魚以上)が漁獲される。

【漁獲量】山口県日本海区の漁獲量は、資源量の変動傾向と大きく異なり、1986年の10,418トン进行ピークに、数年周期で増減を繰り返しながら顕著に減少し、2017年には19トンになった。その後はやや増加したが、2022年は72トンに減少した。

【資源状態】資源量は2003年以降増加傾向を示し、2015年には14万トンに達したが、その後減少し2020年には5.9万トンになった。2021年以降は増加し、2022年は9.1万トンであった。

2022年の親魚量(SB)は最大持続生産量(MSY)を実現する親魚量(SB<sub>msy</sub>:目標管理基準値)を上回った。また、2022年の漁獲圧(F)はMSYを実現する漁獲圧(F<sub>msy</sub>)を上回った。親魚量の動向は横ばいと判断された。

2022年漁獲量(万トン)	MSY(万トン)	2022年親魚量(万トン)	目標管理基準値(万トン)	限界管理基準値(万トン)	禁漁水準(万トン)
4.2	3.5	7.2	5.4	1.8	0.2

\*暫定値